

演題番号: P3-3

筆頭名: 押方智也子

筆頭所属名: 国立病院機構相模原病院 アレルギー・呼吸器科

共著者名:

○押方 智也子 1)、釣木澤 尚実 1)、齋藤 明美 2)、中澤 卓也 2)、安枝 浩 2)、秋山 一男 1)

共著者所属:

1)国立病院機構相模原病院アレルギー・呼吸器科、2)国立病院機構相模原病院臨床研究センター診断・治療薬開発研究室

演題名: 冬季の環境中ダニアレルゲン量増加はアトピー型成人喘息患者の冬季の臨床症状悪化と関連する

【目的】昨年我々は、管理良好な成人喘息患者の環境中ダニアレルゲン(Der 1)量は秋季に増加し冬季に減少すること、喘息重症度、PEF 週内変動、呼気 NO と正の相関があることを認め、成人アトピー型喘息患者において薬物治療介入がなされていてもダニ抗原曝露の影響を受けることを報告した。今回、有症状症例を含む成人喘息患者を対象として Der 1 量の季節変化と臨床所見について検討した。【方法】当院通院中の有症状症例を含むダニ感作成人喘息患者 45 例を対象とした。秋季(8-10 月)と冬季(12-3 月)に個人曝露量として皮膚と寝具の表面からテープ法にて、寝室空気中の塵をシャーレ法にて採取し、Der 1 量を高感度蛍光 ELISA 法で測定した。臨床症状は感染症状を除き、喘鳴、ラ音、発作性呼吸困難感、咳嗽、喀痰の一つ以上陽性例を臨床症状ありと定義した。抗原曝露量と臨床症状の有無を比較した。【結果】対象者の 55.6%が Step4 の重症例であり、秋季には 69%が、また冬季には 53%が有症状であったが、症状の内容については差を認めなかった。秋季と冬季の Der 1 量は皮膚、寝具、寝室のいずれも正の相関を認めた($p<0.01$)。秋季と比較して冬季の Der 1 量は皮膚($p<0.01$)、寝室($p<0.05$)において有意に減少した。冬季に有症状の症例では無症状の症例と比較して皮膚、寝具、寝室の Der 1 量が冬季に増加した症例が多かった(皮膚; $p<0.05$ 、寝具; $p<0.01$ 、寝室; $p<0.01$)。秋季の Der 1 量の平均値よりも冬季に Der 1 量が高い症例では、冬季に症状がある症例が多かった(皮膚; $p<0.01$ 、寝具; $p<0.01$ 、寝室; $p<0.05$)。皮膚、寝具、寝室の冬季 Der 1 量と%PEFmax は負の相関を認めた(皮膚; $p<0.05$ 、寝具; $p<0.01$ 、寝室; $p<0.05$)。冬季に Der 1 量が増加した症例ではベッド使用、掃除頻度が週 1 回未満の症例が多かった。【結論】自然経過では Der 1 量は秋季に増加し冬季に減少するが、冬季に Der 1 量が減少しないあるいは増加するダニ感作成人喘息症例では、冬季の臨床症状の増悪とダニ抗原個人曝露量および寝室の空气中ダニ抗原量の増加が関連することが明らかとなった。成人アトピー型喘息患者の冬季の症状増悪因子のひとつとしてダニアレルゲン曝露を考慮する必要がある。